



校庭にあふれる 子どもたちの元気

元福岡市立横手小学校長
古田 秀人氏

福岡大学と小学校との交流は、2018年に9年目に入ります。サッカーだけでなく、水泳などのスポーツでも交流するようになりました。子どもたちを指導した福岡大学の学生の中には、小学校の教員を目指す人も出るなど、学生にとっても小学校での経験が生きています。今後はより多くの分野で、小学校との交流の輪が広がっていくことを期待しています。

スロージョギング®で 健康経営

正興ITソリューション(株)
代表取締役社長
有江 勝利氏

企業がその活力を保ち続けるためには、社員が健康でなければなりません。正興電機グループには、田中宏暁先生が提唱しておられるスロージョギング®を取り入れ、メタボリック症候群から脱した社員もいます。スロージョギング®継続のおかげでリバウンドもありません。福岡大学の研究成果をITと組み合わせて、より多くの人の健康づくりに貢献するのが、私たちの願いです。



産官学連携で 社会をもっと豊かに

(株)日立製作所ヘルスケアビジネスユニット
経営戦略室 渉外部 部長代理
光城 元博氏

少子高齢化・人口減社会に挑むには、多世代交流を通じてお互いに支え合いながら予防や健康づくりに取り組む、地域ケアシステム・健康管理プログラムの創出と社会実装が必要です。そのためには産業振興を担う企業、研究や人材育成を担う大学、まちづくりを担う行政による協創が不可欠です。福奏プロジェクトから世界を救う社会実装モデルが生まれることを願っています。

私たちが福奏プロジェクトを応援しています!



高齢者の活力を まちづくりに生かす

那珂川市長
武末 茂喜氏

那珂川町(当時の名称)は、福岡大学と連携して「認知症予防に関する研究事業」を実施しました。研究では、ニコニコベースのステップ運動などが、筋力アップや認知機能の向上に効果があることが実証されました。現在は、住民の方が主体となって、地域でステップ運動教室の開催やサークル活動が行われています。今後も研究事業の成果を活かし、健康で生き生きと暮らせるまちづくりを進めます。

ヘルスツーリズムを 福岡から世界に発信

ジャパン・メディカル&ヘルスツーリズムセンター所長
一般財団法人日本健康開発財団 メディカル&ヘルスケア事業部長
(株)JTB経営戦略本部調査役
松嶋 孝典氏

健康・医療の分野は、日本再興戦略に基づく国策として、国内に限らず国外も見据えた新たなサービス産業の創出機会として期待されています。国内においては、ヘルスツーリズム認証制度の運用が開始されました。また、海外に向けては、ヘルスツーリズムのプロモーション促進事業も計画されています。福岡大学様が掲げる「福奏プロジェクト」が、地域密着による社会の活力を生み出すことに留まらず、日本においては世界と共鳴する発信源となることを願っております。



笑顔で子育てできる 環境をつくらう

(株)フラウ
代表取締役社長
濱砂 圭子氏

創業以来25年以上、福岡の子育て環境改善を提唱し、ベビーベッドの設置、授乳室の増設、子づれママの優先権など、具体的に町や意識を変えてきましたし、現在も生み育てやすい国づくりを目指して活動を続けています。「福奏プロジェクト」は大学や地域、行政、企業の真ん中に子育てママを置いた取り組みであり、大変期待しています。子育ての笑顔が輝く福岡市を産官学連携で創っていきましょう!

FUKUSOU PROJECT 福奏プロジェクト

出生前から老年期まで
各年代で遭遇する健康上の課題を
福岡大学の「知」で解決し、
人々の福(ハッピー)を奏でます。



福岡大学の「知」で 健康持続社会をつくる

福岡大学は、西日本随一の総合教育、研究、医療の提供を通して時代に即応し発展する大学を目指しています。本学で展開している福奏プロジェクトでは、地域の方々の出生前から老年期に至る健康課題の解決に取り組み、健康持続社会の実現に向けて、3つの研究チームが、子育て対策や学童期・思春期の学校適応と体力向上、中高年期の健康づくりや社会活動支援を展開しています。今後は、「研究」の先を見据え、積極的に地域や産業界との連携を深めながら、研究成果の社会実装・地域貢献を進め大学ブランド力の向上に努めてまいります。



福岡大学 学長
朔 啓二郎

福岡大学は1934年に
福岡高等商業学校として創立。

建学の精神として
「思想堅実」「穏健中正」「質実剛健」
「積極進取」を掲げています。



福岡県副知事
大曲 昭恵 氏

福岡県副知事より応援メッセージ

誰もが元気で健康に 暮らせる社会に

生涯を通して誰もが元気で健康に暮らせること、それが福岡県が目指す社会です。出生前から高齢期に至るまで、それぞれのライフステージで健康であることが、人生を豊かに過ごす第一歩ではないかと思います。この産学官連携プロジェクトが非常に大きな成果となりますことを、お祈り致します。研究の成果を楽しみにしております。

研究成果を社会に届ける (学部横断的な3つの研究チーム)

福岡大学は全国で唯一、ひとつのキャンパス内に人文科学(人文学部)、社会科学(法・経・商・商二各学部)、自然科学(理・工・医・薬・スポーツ科各学部)からなる9学部31学科を擁する西日本屈指の私立総合大学です。

こうした特徴やこれまでの成果を生かし、学部横断的に構成された3つの研究チームが、産業界や行政などと連携・協働しながら、「出生前・妊娠・出産・子育て期」「学童期・思春期～青年期」「中高年期」における健康上の課題の解決に取り組んでいます。

現代社会では、子育て力の低下、学校不適応の子供の増加、生活習慣病の蔓延、高齢者の認知症や閉じこもりなど、健康な時間を過ごせない問題が生じています。そこで、家庭支援、学校教育支援や中高齢者活動を通じて、身体的・心理的・社会的介入を実施し、活力ある人間をつくる健康先進プログラムを開発することにより、大学の「知」を社会の「価値」に転換し、健康持続社会の実現につなげる「福奏プロジェクト」を実施しています。

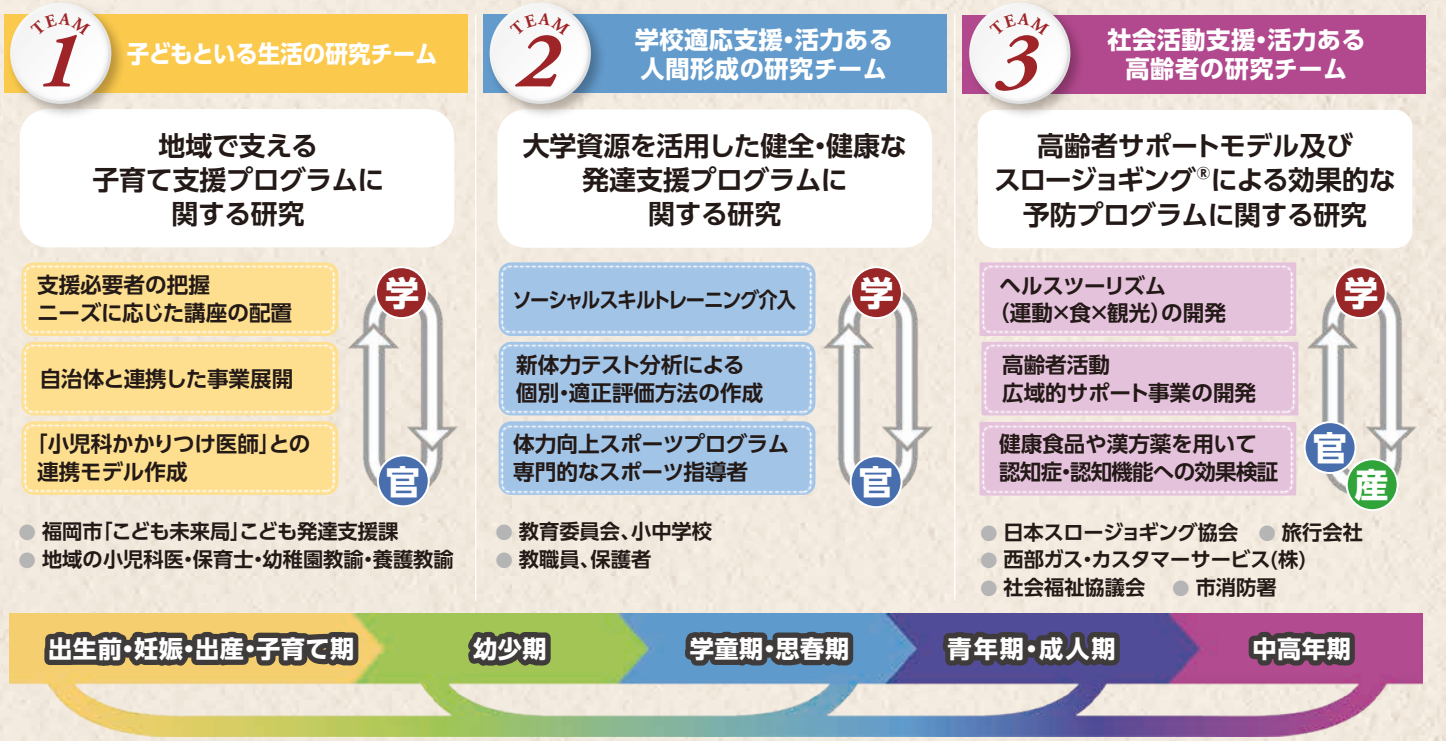
福奏(FUKUSOU)には、地域の助け合いを基盤に、人々の福(ハッピー)を奏でることにより、健康持続社会の実現を目指すとの意味が込められています。

『ライフタイムにおける活力形成による健康な時間の創造～福奏プロジェクト～』は、本学のステークホルダーである地域社会のすべての方が、心身ともに健康な一生を過ごせるよう、産学官民の連携によって取り組み、明るく闊達な大学づくりを目指す福岡大学のブランド戦略を具現化するプロジェクトです。福大チーム一丸となって、本学のブランディングの一助となるよう、ビジョンを実現したいと思います。



研究統括責任者
檜垣 靖樹
(スポーツ科学部教授、身体活動研究所長)

ライフタイムにおける活力形成による健康な時間の創造 ～福奏プロジェクト～ 3つの研究を連携させ、健康時間の創造を可能とする先進プログラムを開発し、これを広く社会に普及させます。



国際シンポジウムを開催



大学見本市に出展



TEAM 1

出生前・妊娠・出産・子育て期

子どもといる生活の研究チーム



チームリーダー
廣瀬 伸一
(医学部教授、てんかん分子病態研究所長)

医学・看護の専門家が 子育て・孫育てを強力バックアップ

健康上の課題

子どもを持つ親世代の妊娠・出産・育児に対する不安が、産後うつ病や子どもへの虐待を招いています。

福奏プロジェクト

親世代、さらには祖父母世代に対して、妊娠前、妊娠中、出産・育児期それぞれに応じた講座を定期的で開催し、切れ目のない支援を提供します。小児科医、保健師、助産師、看護師、養護教諭の協力の下、子どもの「かかりつけ小児科医」を決め、必要に応じて自治体のケースワーカーとも連携する体制をつくります。

期待される成果

他職種連携、地域ぐるみで子育てを支援することにより、親世代の不安が軽減し、子どもが健康に育つ環境を実現します。



ママになる方とご家族(ママ・パパ・祖父母)、地域で子育てに関わる方に向けた子育て講座

子どもの親や祖父母を対象に、 子育ての新常識を伝える講座を開催



ステージに合わせた講座を準備 参加者同士の交流も



TEAM 2

学童期・思春期～青年期

学校適応支援・活力ある人間形成の研究チーム



チームリーダー
松永 邦裕
(人文学部教授、臨床心理センター附設学校適応支援教室「ゆとりあ」教室長)

子どもたちが社会に 適応する力をつける

健康上の課題

子どもが学校生活になじめず、いじめや不登校が起きています。

福奏プロジェクト

臨床心理センターの附属施設「ゆとりあ」で培った経験を生かし、小・中学校の児童・生徒にSST(ソーシャルスキル・トレーニング)を実施します。SSTは、認知行動療法と社会学習理論を基盤にした支援方法で、ロールプレイやよかったところのフィードバックを通じて対人コミュニケーション能力を高めます。

期待される成果

いじめや不登校を未然に防ぎ、子どもがたくましく生きる力を伸ばします。



友だちとの接し方を学ぶ

「生きる力」が育つ学校文化を創る



学生アスリートが 小学校の体育授業を応援

健康上の課題

低出生体重児や早生まれの子どもは児童期の体力が低く、発育・体力レベルに応じた運動指導が求められています。

福奏プロジェクト

福岡市教育委員会等と2011年度より行ってきた児童・生徒の体力評価の結果を反映させる形で、運動神経を効果的に高めるコーディネーショントレーニングや、体力に応じた運動指導を行います。福岡大の運動部に所属する学生アスリートが、小学生を直接指導します。

期待される成果

子どもの体力はもとより協調性や頑張る力を伸ばし、健全な成長を促します。



コーディネーショントレーニングでは、リーフレットやDVD・書籍を作成し福岡市内の全小中学校へ配布し、教員向け研修会や小学生を対象とした効果検証等を継続的に実施しています。

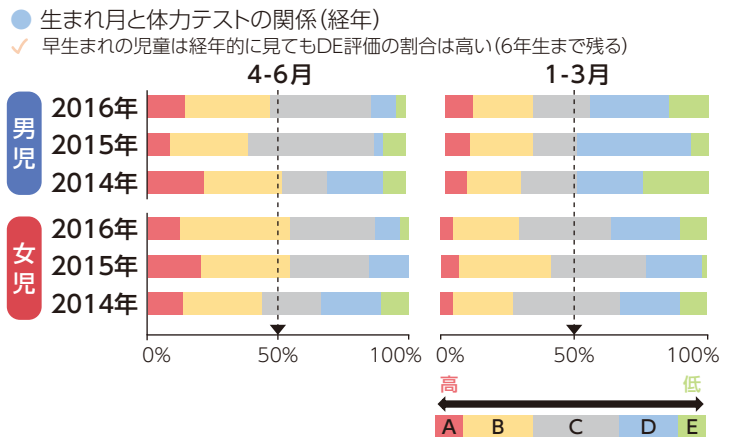


リーダー
乾 真寛
(スポーツ学部教授)



サッカー授業支援 水泳授業支援 スノーケリング教室

小学校児童(福岡市)の体力データを解析



福岡大学スポーツ学部/身体活動研究所 2016年度データより作成

スロージョギング®で 年を重ねても元気に

健康上の課題

人口の高齢化により、生活習慣病、転倒・骨折、認知症が急増しています。これらにより医療費の高騰が問題になっています。

福奏プロジェクト

疲れのない程度の遅い速度で長く走るスロージョギング®は、減量、筋力アップはもとより生活習慣病予防や認知機能の維持・向上に有効であることを実証しました。スロージョギング®に食事や観光を組み合わせたヘルスツーリズムを開発し、世界中の人々に広めます。



チームリーダー
上原 吉就
(スポーツ科学部教授、身体活動研究所)

期待される成果

生活習慣病、転倒・骨折、認知症を予防する健康先進プログラムを開発します。健康寿命をさらに伸ばし、医療費を削減します。

ヘルスツーリズムを活用した健康づくり支援

運動
スロージョギング®は韓国を始め海外でも普及

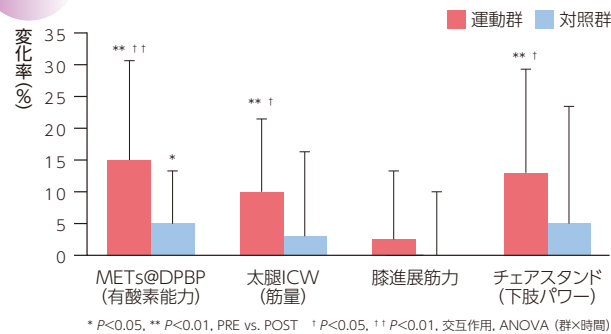
食
豊富な食材・栄養バランス
低カロリーで満足感
器と盛りつけ(視覚的楽しみ)
食生活についての産学

観光
運動生理学の視点から長期効果を検証

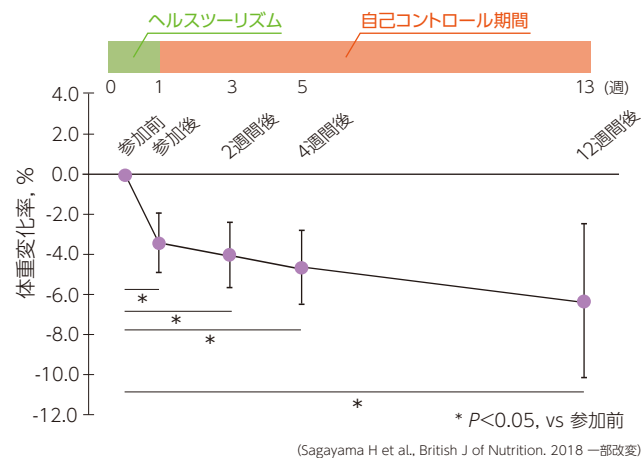
●1日のスケジュール

起床	運動	朝食	アクティビティ	運動	昼食	アクティビティ	運動	夕食	運動	就寝
6:00	7:00			12:00			18:00		21:00	22:00

スロージョギング®による運動介入の効果



ヘルスツーリズム参加による体重の変化 (BMI 25以上の参加者16名)



企業と協働で一人暮らし 高齢者を支援



リーダー
馬場 みちえ
(医学部准教授)

健康上の課題

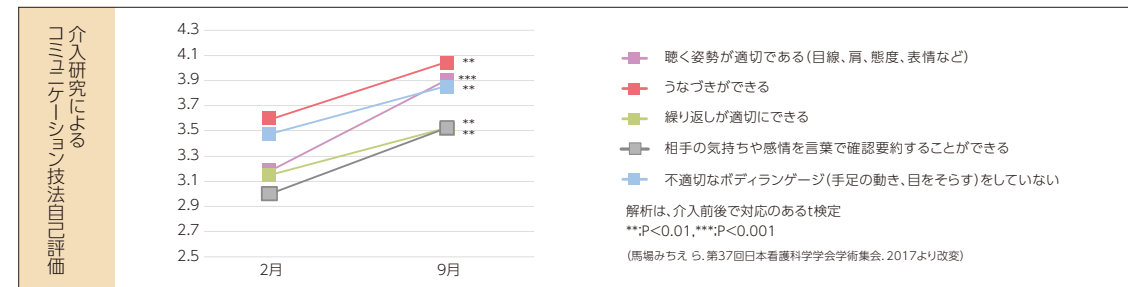
一人暮らしの高齢者が増え、家庭内での事故や孤独死が懸念されます。

福奏プロジェクト

福岡県を基盤とする大手都市ガス会社と協働。看護の専門家によるコミュニケーションスキル研修を受けた企業社員が、高齢者や住民とともに地域貢献できるように支援いたします。

期待される成果

産官学連携で、地域ぐるみの“見守りネットワーク”を構築します。



漢方の方で認知症を予防

健康上の課題

認知症に対する有効な治療・予防薬はまだ開発されていません。

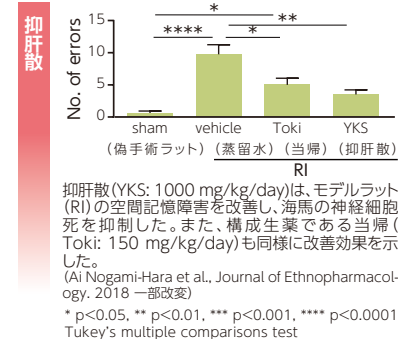
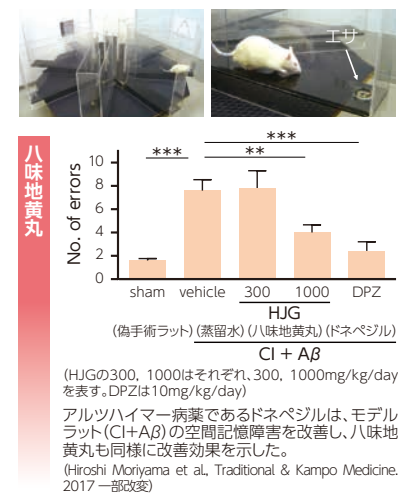
福奏プロジェクト

漢方薬の抑肝散や八味地黄丸には記憶障害や睡眠障害を改善する効果があることが、動物実験で認められました。これらの漢方薬の作用メカニズムを解明し、認知症の予防対策に生かします。さらに、スロージョギング®と組み合わせることにより、高齢者の虚弱(フレイル)を防ぎます。

期待される成果

認知症やフレイルを未然に防ぎ、健康寿命の延伸につなげます。

8方向放射状迷路課題での誤選択数



天然物・漢方
社会的問題 独居・閉じこもり
フレイル 予防
認知症 サルコペニア ロコモ
スロージョギング®
活力ある 高齢者社会

漢方薬の効果を実証して医療に貢献

